

# AIとロボティックスで 世界の農業を解決する



AGRIST株式会社



## VISION

---

**100年先も続く  
持続可能な農業を実現する**

食料課題を解決し

全人類の幸福（ウェルビーイング）に貢献する

## MISSION

---

**テクノロジーで  
農業課題を解決する**

テックカンパニーとして

最高の製品をつくり社会に貢献する

## CORE VALUE

---

**YES, We Can**

「できるか？できないか？」ではなく、  
「やるか！やらないか！」で世界を変える

# 設立経緯「ロボットが必要だ」



ピーマンとキュウリの一大生産地の宮崎県。2017年から地元農家らと勉強会を開催。高齢化に伴った収穫の担い手不足のため「ロボットが必要」の声から生まれた課題解決型のスタートアップです。

## 企業名

AGRIST(アグリスト)株式会社

## 設立

2019年10月24日

## 資本金

1億円

## 出資株主

15社

## 事業内容

AI・ロボティクス事業  
農業生産販売・実証事業  
営農参入支援事業

## 役員

代表取締役: 斎藤 潤一  
代表取締役: 秦 裕貴  
社外取締役: 古里 圭史  
監査役: 野村 宗芳

メンバー構成(34名)  
取締役: 3名、監査役: 1名  
技術者: 10名、農場生産: 16名、  
広報: 1名、経営管理: 3名 + 業務委託

## 本社/農場

本社: 宮崎県児湯郡新富町富田南1丁目53番地1  
AGRIST常総農場: 茨城県常総市三坂町5396(大規模実証施設: ピーマン、キュウリ、約1ha)  
AIロボット農場: 鹿児島県肝属郡東串良町川西1953-2(AGRIST FARM: キュウリ、30a)

# これまでの歩み

官民連携でテクノロジーを活用した農業生産を全国展開。

国内外で約 30 のアワードを受賞。

2017年



## 0. 農家と勉強会

宮崎県新富町の農家らと勉強会を開催し、現場の農家からロボットの必要性を確認。

2019年



## 1. ロボット開発

ピーマンの自動収穫機（試作機）を開発し、地域金融機関やベンチャーキャピタル等から資金調達を実施。

2022年



## 2. 農業生産法人

自動収穫ロボットを活用した「儲かる農業モデル」を確立するため、自ら営農を開始。

2023年



## 3. 農業パッケージ 全国展開

マクニカ社、宮崎県とピーマン収穫ロボによる持続可能な農業の実現に向けた連携協定を締結。

2024年



## 4. 農林水産省 SBIRに採択

AI農業を活用したサプライチェーンの構築で補助事業に採択。茨城県常総に3haの農場を展開

2026年



## 5. 農林水産省 受託事業に採択

ロボットの葉かき・摘果の機能追加のための研究開発を実施。

ロボットを活用した農業パッケージを販売

# AIロボティクス事業



# AI・ロボティクス事業

## 独自性:「生産性アップ」×「AI」

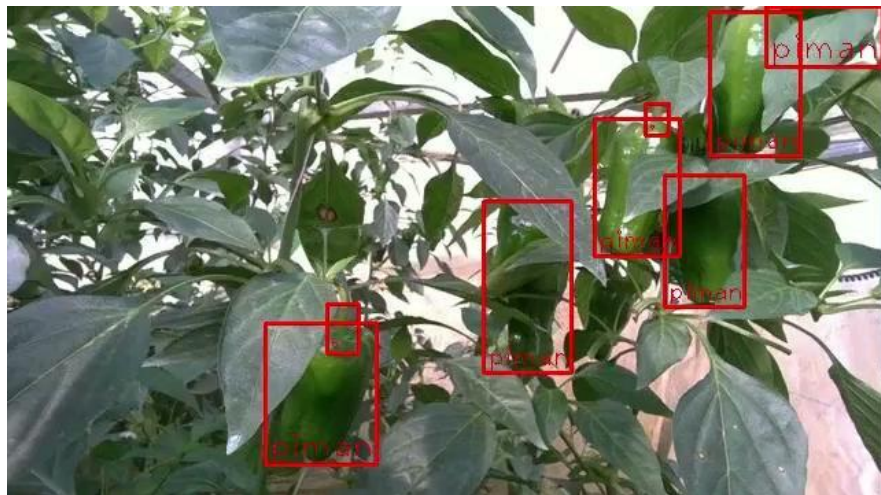


ロボットが巡回し生育データを収集。ハウス内の環境データを掛け合わせし生育の最適化を実施。  
現在、全国にて旧型含め **15台**をレンタル等含め稼働中。

# AI・ロボティクス事業

独自性:画像解析データ収集

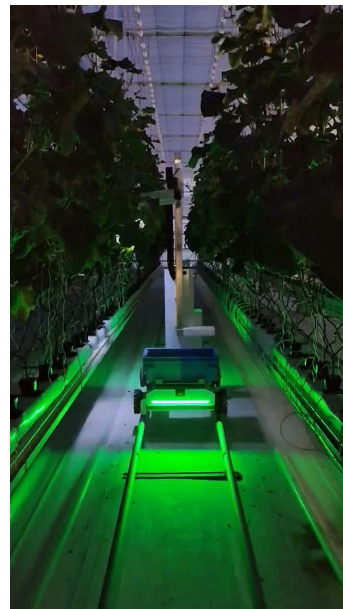
収穫ハンドを変えることでピーマンとキュウリを収穫



収穫ロボットで **生育データを記録** することで精度の高い収量予測、環境制御を目指す

# AI・ロボティクス事業

## 独自性: 畝間移動・夜間収穫(現在、開発中)



- ・畝間に敷かれた**レール上を自動で移動し、既存レールの活用** も可。
- ・**自在タイヤで隣の列へ** のスムーズに移動。タグ認識で **列毎の作業指示が可能** に。

# AI・ロボティクス事業

## 技術優位性とKPI:「生産ノウハウのデータ化」×「AI」



ハウス内の環境制御やロボットの稼働は、PCやスマートフォンから **遠隔で指示可能**。需要予測や出荷量予測をもとに、AIが最適な調整を行います。将来的には、栽培アドバイスまで行う **農業特化型 AIエージェント** を目指しています。

## Ai Cloud

### 生産

収量予測 ↔ 最適出荷

収量を正確に予測し、最適な出荷計画をたてる



#### 人材不足・勘による運営の解消

ロボットが収集した栽培データやハウス環境をAIにより調整し、栽培管理の最適化を行う

需要が高い時期に収量の山を合わせ  
「収益最大化」を目指す

### 物流

物流予測

物流需要とリソース活用を配送計画に反映

#### ドライバー不足問題の解消

配車の最適化によって物流の負担を軽減し、労働力不足を補う

### 販売

POS需要予測 ↔ 販売管理

POSデータの需要予測に基づき販売管理を行う



#### 食品ロスと売れ残りの削減

需供の調整により、廃棄コストの削減と環境保護に直接貢献

## 官民連携で農業パッケージ

儲かる農業の実現を目指す  
国やJAとも連携して拡大

